



昭和ひみつ基地 隊長

谷 信行

TANI NOBUYUKI

1965年 柏崎市出身

2022年「昭和ひみつ基地」をオープン

ウルトラマンやゴジラ、ヒーローものといった懐かしいソフビ（ソフトビニール人形）たち。「企業物」とも呼ばれる紙箱のパッケージや、戦前・戦後の和ガラスなど、昭和の懐かしい物やおもちゃが詰め込まれた宝箱のような場所、それが「昭和ひみつ基地」。オーナーで隊長の谷信行さんは30年間大切にコレクションしてきた物を手放すことに決め、この店をオープンしたという。

谷さんが初めて手にしたのはゴジラやウルトラマン。集め始めたのは20代半ばだった。その頃は「コレクション」という言葉もなく、周りからは子供みたいだと心無い言葉をいわれたこともあった。インターネットもなかったため、購入するには玩具店などをまわり一つ一つ自分の目で見て集めるしかなかったという。さらに並行して集め出したのは瓶ジュース。コーラやファンタ、スプライトなど、当時のジュースは瓶が当たり前だったが缶ジュースへ移行したことで王冠の付いた瓶ジュースは販売されなくなった。無くなると不思議なものでどうしても飲みたくなり、いろいろ探しまわったが見つからなかった。ようやく見つけたのはインター

ネットのオークションで既にプレミアが付いていた。谷さんはオークションで瓶ジュースを購入、現在100本ほどのコレクションがあるそうだ。

コレクションを始めてから骨董店にも通うようになり「和ガラスにもはまった」という谷さん。戦前・戦中・戦後それぞれの時代ごとに作られたガラス製品の美しさに惹かれ、かき氷を入れる氷コップも集め始めた。骨董屋で譲ってもらった「企業物」と呼ばれる非売品のキャラクター人形や、紙箱もデザインが斬新で丁寧に作られていることに感銘するという。めったにお目にかかれない100年前の品物も多くあり、一度や二度見ただけではその全貌を知ることにはできないだろう。訪れるたびに新しい発見があり、谷さんから商品のエピソードを聞いているだけで子どもの頃の思い出がよみがえるようだ。

昭和ひみつ基地に置いてあるものは全て売り物で谷さんが大切に扱ってきたもののばかり。「商売をしようと思って集めたものじゃない」から、自分のコレクションで一番良いものを真っ先に並べたといい「これほど反響があるとは思わなかった」と驚いている。市内だけでなく市外や県外からわざわざ訪れる方も多く、その出会いにも感謝している。

コレクターを辞めたわけではないから、とほほ笑む谷さん。「懐かしいと言ってもらえることがうれしい。気軽に昭和ひみつ基地に足を運んでいただきたい」と話している。



お問い合わせ

昭和ひみつ基地
柏崎市柳橋町9-32 マルシンビル103
営業 12時～（不定休）



Instagram